

地域と農業を結ぶ、ふれあいと幹の発信源

Ag fresh

あぐ
れっしゅ

4

2019. VOLUME.109

おかげさまで合併10周年



△地区別懇談会で
△北部営農センター設置などを報告△

特集 さらなる経営基盤の強化へ

みんなのよい食プロジェクトとは、
これから日本人にとって「よい食」
とは何かを、日本の農家とJAグループ、
消費者のみなさんと一緒にになって
考え、行動していく運動です。



腕じまん

地域じまんのモノ語り

大いに笑い、楽しく長生き
～感謝のイベント「JA年金友の会会員のつどい」盛大に～

J A年金友の会は3月21日、本店で会員のつどいを開き、参加会員約400人が「あすか流一行と仲間たちのバラエティーショー」を楽しみました。

年金友の会の米田鉄雄会長は「友の会の様々なイベントに参加し、大いに笑い楽しみ長生きしよう」と、あいさつ。祝辞では竹ヶ原幸光組合長が「JA事業のご協力に恩返しするイベント。大勢の参加に感謝します」と述べました。

バラエティーショーでは、民謡や華麗な衣装を身にまとめての踊りなど22曲を披露。会場は、参加会員の歓声や拍手が鳴り響いていました。むつ市から参加の70代女性は「存分に楽しめた。次のイベントが待ち遠しい」と満喫した様子でした。

次回イベントは4月下旬に観桜会を予定しています。



年金受給者の特典！

- 当JAで年金受給されている方、全員を「年金友の会」の会員とさせていただいている（会費無料）。トークライブ、漫談ショー、一泊二日の旅行、グラウンドゴルフ大会など、様々なイベントを開催しています。
- 金利上乗せ年金定期貯金「いきがい」店頭表示金利十年0.10%上乗せ



JA十和田おいらせの 年金定期貯金

JA十和田おいらせの年金受給者の方もご利用できます
(年金受給の申込みも可)



年金受給者特典！



※詳細は本支店の金融窓口までお問い合わせください。

次回外務予定日 5/16(木)～20(月)

■2019年4月11日発行 ■発行／十和田おいらせ農業協同組合 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
■編集／JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■Email/soumu@jatowada-o.or.jp ■印刷／アート印刷

表紙紹介

●シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.83

けいしょびと

継承×人

大深内支店管内

しもくぼ ゆうき
下久保 勇樹さん(34)

貢献できる牛の削蹄師を目指す

「牛の育成に爪の管理が重要なんです」。JA肉用牛ヘルパー部会のメンバーに同行し春一斎の削蹄を手伝う勇樹さん。修業デビューの今年は、先輩方の技を間近かで見て学び、その奥深さに経験を積み重ねていくことの大切さを痛感している。「地域ブランドの十和田湖和牛の品質向上に貢献できるようにしたい」と話し今年秋、削蹄師の資格取得を目指す。

ヘルパー事業を担う一人

繁殖農家を継いで5年目。父と一緒に作業をする。日々の牛の管理に加え、これからは秋まで米の管理、牧草の刈り取りの受託と忙しいシーズンが始まる。

勇樹さんは、当JAの生産組織の十和田市黒毛和種改良組合に属し、その下部組織である肉用牛ヘルパー部会の一員。ヘルパー部会は、削蹄のほか牛の市場への運搬、乾草の運搬、飼養管理などを担う。農家の担い手不足や高齢化が進むなか、ヘルパー事業の果たす役割はますます重要なになっている。



▲肉用牛ヘルパー部会の削蹄グループのみなさん



撮影日…3月19日

良い牛づくりに肝心な仕事

ヘルパー部会の削蹄師グループは20~60代の7人で、委託を受けた牛舎を3月から巡回。1日に30頭余りの爪を削蹄する。

作業は、柵内に牛を入れてからロープをかけて足を固定し、一本ずつ爪の表と裏を丁寧に切っていく。牛の重量は500~600kgもあるため、柵内に入れるのも大変な重労働。爪の形も牛によって違い繊細な作業になる。ミリ単位で伸びた爪を切り、牛にとって快適な形に揃える。

伸びた爪では歩きにくく、ストレスの基になり、ケガもしやすい。「牛は快適でストレスのない環境で育つからこそ、質の良い牛肉や牛乳を作りだす。出産間隔も短縮される」と話す勇樹さん。師匠の技を真剣なまなざしで見つめる。

ブランド力を高めたい

経営面での目標は「子牛の質を上げて、頭数を増やしたい。牛の削蹄を含め、十和田湖和牛のブランド力を高めていきたい」と意気込む。

プロフィール

しもくぼ ゆうき 十和田市深持
組合員=正樹さん
家族構成/父、本人
農業経営/親牛13頭・子牛9頭(黒毛和種)
水稻5ha、牧草(作業受託)

J A合併10周年記念

J A十和田おいらせ牛肉まつり開催

開催日時:2019年4月29日(祝日)

午前11時~午後3時まで

開催場所:本店駐車場(十和田市西十三番町4の28)

唄と踊り、お楽しみ抽選会などで、お楽しみください。



参加チケット 十和田湖和牛350グラム、野菜
焼き道具一式貸与など、1セット3千円(税込)。

前売券販売 J A本店ほか、十和田市内各支店などで
4月12日(金)から取り扱いしています。
当日の牛肉即売会は午前10時より販売開始。

※詳細については、当JA畜産課まで TEL.0176-23-0332

金融部

ローン相談会(本支店のご案内)

毎月第3日曜日 9:00~15:00

4月
21日

相談会場
本店・下田支店
七戸支店・むつ支店

5月
19日

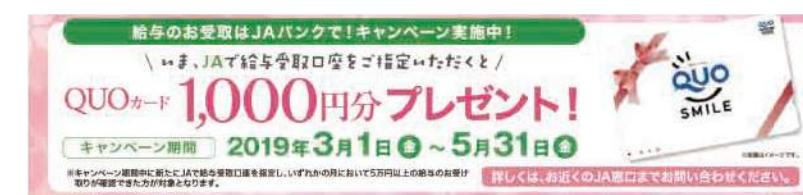
相談会場
本店・下田支店
上北支店・むつ支店

新築・リフォーム、自動車の購入など、農業資金以外でも、各種ローンを取り扱いしております。会社員の方、自営業の方、JAとのお取引がない方もお気軽にご相談ください。相談にて来場いただいたお客様に粗品をプレゼントいたします。

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。

J Aネットローン

各種ローンがネットで仮申込みできます。
24時間365日受付中 検索方法は「JAネットローン」で検索!!



年金来店感謝デー 次回は6月14日(金)~

もくじ

contents

あぐれっしゅ

vol.109

4

おかげさまで合併10周年

特集 5~7p

さらなる経営基盤の強化へ
~地区別懇談会で
北部営農センター設置などを報告~

・米穀畜産部
JA牛肉まつり開催 4/29
・金融部
給与受取口座指定キャンペーン
ローン相談会 2p

継承人 表紙紹介 3p
下久保 勇樹さん(大深内支店管内)

あぐれっしゅ情報① 4p
ゴボウと和牛で快挙
・広清(ひろきよ)県基幹種雄牛に指定
・コボウグローバルGAP取得

NEWS&TOPIC 地域の話題 .. 8p
・青森県農業研究協会賞
・子牛管理品評会
・青年部総会・女性部総会 一ほか

あぐれっしゅ情報② 12p
・総務部 新採用職員紹介/人事異動

あぐれっしゅ情報③ 16p
・総務部 スライド動画で事業紹介
・指導やさい部 営農指導員が学習会
・埼玉テレビでナガイモPR&レシピ紹介

ふれあい広場
頭の体操 パズル? 17p

information ... 18p
・新採用職員募集
・理事会だより 一ほか
役員室のつぶやき

腕じまん

地域じまんのモノ語り .. 20p
・多いに笑い、楽しく長生き
～感謝のイベント
「JA年金友の会会員のつどい」盛大に～

JAの概況 平成31年4月1日現在

正組合員数/6,501人
准組合員数/5,107人

役員数/26人

職員数(准職・嘱託含)/285人

貯金高/798億 535万円

貸出高/170億9,253万円



～管内10カ所で地区別懇談会開催～

当JAは3月5～7日までの3日間、管内10カ所で地区別懇談会を開きました。農家組合員214人出席のもと、JA役職員・子会社役員が2018年度は全事業で計画通りの決算見通しであることや、北部営農センター設置に伴う機構の再編など、新年度の取り組み方針などを説明しました。今回の特集では、懇談会で出た質疑応答の一部を紹介します。

2018年度 やさい対策事業の実績報告

農業所得の増大、農業生産の拡大を後押し

～種苗費助成、利用奨励金など総額約1億4千万円を支援～

▶やさい産地拡大対策事業に係る助成金の支払い

(対象期間:2018年4月1日～2019年3月31日まで)

	対象農家戸数	助成金額(円)税込
品目助成	106	4,802,491
ムカゴ購入助成(1/3)	165	3,064,883
施設野菜(遮光フィルム)	1	14,324
土壤診断料助成	1,025	1,976,400
計		9,858,098

▶肥料・農薬・ダンボール奨励金の支払い

(対象期間:2018年1月1日～12月31日まで)

	対象農家戸数	助成金額(円)税込
肥料ランク奨励金 (供給額20万円以上)	1,722	35,212,789
農薬大口利用奨励金 (供給額100万円以上)	213	9,870,068
ダンボール出荷奨励金	1,422	22,692,092
計		67,774,949

▶やさい集荷対策金の支払い

(対象期間:2018年1月1日～12月31日まで)

	対象農家戸数	助成金額(円)税込
やさい集荷対策金	1,539	65,134,596

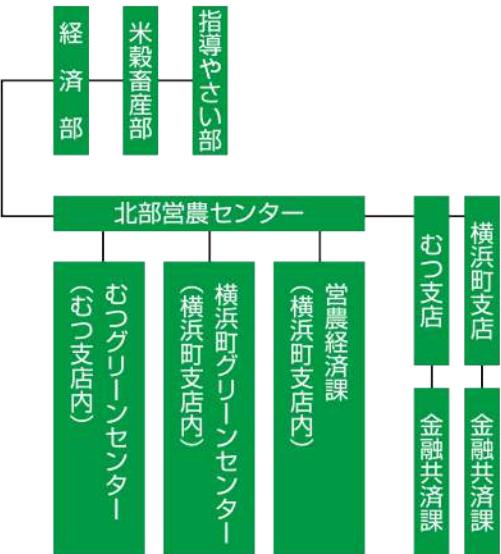
※3月理事会だより資料

● 事業別の状況 ●

事業別	項目	実績見通し額	計画対比
		(千円)	(%)
信用	貯金残高	78,978,296	100.1
	貸出金残高	17,103,808	114.0
共済	長期共済保有高	329,481,490	101.4
	短期共済新契約掛金	987,835	103.1
購買	生産資材	5,131,546	99.2
	生活資材	169,622	93.0
販売	やさい	8,743,698	96.1
	米穀	4,073,326	105.7
(株)エコー	畜産	4,966,521	108.1
	自動車、農機、給油所、旅行、福祉等	6,550,230	97.6
(株)協同サービス	葬儀	924,427	100.7

※地区別懇談会資料より

● 機構の再編 ●



ゴボウと和牛で快挙!

「広清(ひろきよ)
県基幹種雄牛に指定
肉質歴代最高を記録」



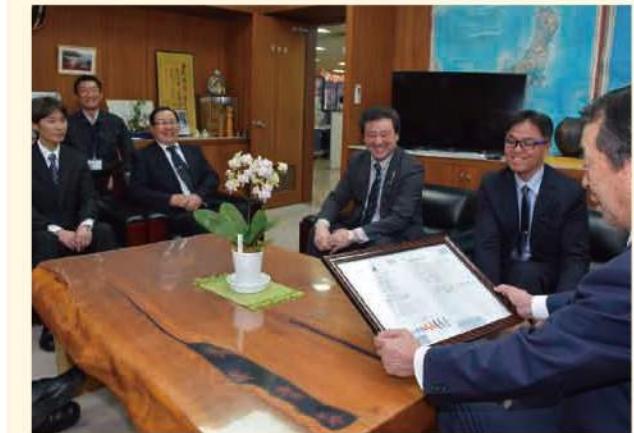
▲「広清」の生産者の畠山廣志さん(写真中央)と、畜産研究所の担当者、改良組合役員のみなさん(十和田市、3・22)

十和田市切田の畠山廣志さん(72)が生産した黒毛和種「広清(ひろきよ)」が、県基幹種雄牛に指定されました。県基幹種雄牛の指定は11頭目、肉質は県の検定で過去最高の成績を記録。「第1花国」産子の雌牛のほか、気高系(増体型)の雌牛などとの相性の良さも期待されています。「広清」の凍結精液は、4月中旬から県内の生産者向けに販売がスタートします。

県が2月25日、県和牛改良推進協議会の指定を了承し同日、正式に発表しました。「広清」(5歳)は2013年生まれ。肉質型の兵庫系で、岐阜県の名牛「白清85の3」を父に宮崎県の伝説の種雄牛「安平」の血を引く「なおみ2」を母にもつ。検定調査牛15頭の肥育成績は、A4等級以上の上物率が93.3%と、県の歴代検定成績(74頭中)で最高を記録しました。

十和田市黒毛和種改良組合の役員らを集めた3月22日の実績報告会で、県産業技術センター畜産研究所の阿保洋一研究管理員は「去勢・雌ともに安定した上物率が魅力。血統は兵庫系を重ねた肉質型だが、骨格は雄大で発育も十分」と評価しています。

ゴボウ グローバルGAP認証
県内初 野菜で取得
差別化販売に弾み



▲竹ヶ原組合長ら常勤役員にグローバルGAPの取得を報告した生産者

当JAは、ゴボウでグローバルGAP(農業生産工程管理)の団体認証を取得しました。野菜の取得は県内JAでは初めて。ゴボウ生産者で、JA野菜振興会の甲田一博会長ら4人が3月11日、本店を訪ね竹ヶ原幸光組合長に認証取得を報告しました。

生産者4人で認証面積は約8.68ha。取り組みは2018年4月に始めました。JAは生産者に、畑・施設等を含めた農場管理や雇用者に対する衛生管理、機械のメンテナンス記帳簿の作成など、多岐にわたって指導。JA全中、JA全農などによる現地説明会、農場での検査や審査を経て19年2月22日、認証取得しました。

竹ヶ原幸光組合長は「付加価値販売で所得増大につなげたい。また、海外輸出も視野に入れ、アピールしていきたい」と強調。斗澤康広営農担当常務は「グローバル認証が当たり前の時代が来る。今回認証を受けたグループはナガイモ、ニンニクも栽培している。今回のグループを中心に認証の品目拡大、生産者の拡大につなげたい」と話しました。



みんなの声をお聞かせください。

主な質疑応答

農業総合支援室

A1 申告事務をお願いしているが、申告の結果がなかなかこない。地区別、支店別の応援はできないか。

A1 大型直売所の今後の予定について。

Q1 前回の予定地は、農地転用に時間がかかるため辞退いたしました。土地取得について、地権者の関係もあるので不動産業者に依頼することになりますが、総代会等手続きをふまえ進めて参ります。決定次第、広報等でお知らせします。

Q2 原料高騰に伴う、全農の卸売価格の上昇が原因です。

購買

A1 購買事業について、スケールメリットを感じられない。

A1 購買事業に於ける、在庫の一括仕入、集中配送による配送コスト削減供給額に応じた奨励金の支払い、市況対策等でメリット還元に努めています。

Q1 二ニクやゴボウは、地元市場などに流れている量が多いと感じます。出荷数量の把握、集荷努力をしているのか。また、ゴボウはピクリン使用と非使用のゴボウの値段を区別して欲しい。

産直

A1 申告事務をお願いしているが、申告の結果がなかなかこない。地区別、支店別の応援はできないか。

A1 もともと支店別による事務処理だったものをシステムや職員数の関係上、集約した経緯があります。円滑に出来ることで対応することに理解願います。

総務

A3 人事異動のサイクルが早い、指導員は1~2年で育たない。職員教育をしっかりとやりたい、指導員の育成期間についても考慮して採用してほしい。

A2 加入用申込書等の提出が必要となりますが、簡単な手続きで済みます。また、複数組合員に加入することで、組合運営への参画、および農協事業を利用することができます。

Q2 複数組合員制の手手続き方法は、複数組合員制のメリットを知りたい。

エコー

A1 ブライダル関係は、利用者の激減により募集受付けをしていません。ご利応用の要望があればパート形式等で対応します。旅行事業は、JJA本体からの補填はありません。仮に赤字が大きな金額になります。JJAの理事会で協議検討することになります。

Q1 ブライダル関係は、利用者の激減により募集受付けをしていません。ご利応用の要望があればパート形式等で対応します。旅行事業は、JJA本体からの補填はありません。仮に赤字が大きな金額になります。JJAの理事会で協議検討することになります。

A2 東京の野菜ソムリエ協会の方を通じ、代表格のブランドネギ「ぼけしらぎ」をはじめ、ピーマン、トマト、ゴボウなどレストランやホテルなどに紹介しています。シエフから高い評価を得ています。

Q2 ニンニクについて市場販売だけではなく多様な販売戦略はできないか。

Q3 生共選の施設で、乾燥のみで農家に戻すことはできないか。

Q4 現状では、共選対応で入庫が満杯となっているため、ご理解いただきたい。

Q5 販売事業が計画より下回っている。登録面積を把握して計画をしていますか。また、残渣処理の有料化について、組合員に負担のかからないように再利用する技術開発などはありますか。

A3 「んにく魂」など、付加価値販売に努めています。ニンニクパウダーはお土産品としても人気で、売上げ、販売先も増えています。ニンニク価格が下がった場合でも手取り額が増えるよう、今後も付加価値販売に努めます。

Q6 各支店より登録面積の積み上げをし、それに標準的な出荷量を乗じて算出しています。計画を下回ったのは、不順天候による収穫量の減少も影響しています。バイオマス施設等、内部検討しましたが施設の維持管理費、最終的には農家手取りを考え業者委託する方向で進めています。

A4 新設した北部営農センターを核に、新規就農者を対象にしたマネジメントスクール、育成塾を開くなど、販売・所定数見直しはどうなっているのか。

A5 むつ支店管内で若手いちご農家が増えている。むつ支店の農業振興についてどう考えているのか。

Q5 販売事業が計画より下回っている。登録面積を把握して計画をしていますか。また、残渣処理の有料化について、組合員に負担のかからないように再利用する技術開発などはありますか。

A6 一つは全中が解体され一社法人といふことで、農協法に保護されない任意団体となります。県中央会は連合会と言ふ形となり、農協や組合員の意見を県の政策に要請していきます。一番の問題は准組合員制度を今年中に検証することになります。JAとしては、准組合員は地域農業に貢献していることで主張していきます。

Q2 TFPにより外国産牛肉の輸入が大幅に増えそうだが、それらの対策、対応は。

Q1 輸出米について、JAは今後どのよう取り組んでいくのか。また、飼料用米の省力化への取り組みとして様々なが、どの方法をメインにしていく予定か。

A7 地区に設置計画している営農センター構想の中で専門的指導員、地域総合指導員、営農相談員を配置するなどして体制強化を図ります。統一の出荷規格で販売していきます。

Q7 指導体制の強化対策は考えているか。営農センター構想によつて、統一した出荷規格がまた分かれてしまうのではないか。

沢目寿弘さん雌で頂点、 去勢は沢目喜代人さん ～子牛管理品評会～

十和田市黒毛和種改良組合は3月4日、同市の三本木畜協で第57回子牛管理品評会を開きました。黒毛和種雌牛の部で沢目寿弘さん(大深内)出品の「ふか」、同去勢牛の部で沢目喜代人さん(大深内)出品の「百合清」がチャンピオン賞に輝きました。

同市の繁殖農家が、月齢12ヵ月未満の雌牛39頭、去勢牛35頭を出品。チャンピオンに輝いた雌「ふか」は父が「花之国」、母の父「安福久」、母の祖父は「百合茂」。審査講評で「体積感、資質が素晴らしい、体の深みも優っていた。乳徴も柔らかい」と評価されました。

他の受賞者は次の通り。

◇優秀賞1席

雌牛の部=前川原正義 去勢の部=仁和勝千代

◇優秀賞

雌牛の部=久保英美、川上新一、小笠原嘉正、折田勝男、滝内善浩
去勢の部=久保英美、太田隆志、川上新一



▲チャンピオン賞受賞の沢目寿弘さん親子と雌牛の「ふか」



▲去勢の部でチャンピオン賞受賞の沢目喜代人さんと出品の「百合清」

省力・低コスト稲作の推進へ ～稲作振興会通常総会～

J A 稲作振興会は3月5日、JA本店で2018年度通常総会を開きました。会員60人出席のもと、事業報告と省力・低コスト稲作の推進などを盛り込んだ新年度の計画が承認されました。

2018年産米の取り扱い実績は34万7千俵と、計画の達成率は93.9%。用途別割合では主食用米77%、飼料用米14%、加工用米5%、備蓄米4%でした。

概算金は前年度より500円高の12,000円(まっさら、JA米1等概算価格)、3月20日には千円追加払いしています。

総会前の講習会では、(株)ヤンマー・アグリジャパンの担当者を講師に、スマート農業の先進技術について学びました。



▲スマート農業の最新技術を学ぶ参加農家

野菜の土づくり学ぶ ～若手の要望応える～

ももいし・下田の両支店とおいらせ町は2月28日、おいらせ町内で若手農家を集めた勉強会と交流会を開きました。

土づくりを学びたい若手農家の要望に応えたもので、20~40代の農家36人が参加しました。講演した川合肥料株式会社の川合大介氏は「土壤分析を行い、土の栄養バランスを整えて、さらに微生物をうまく活用すれば連作障害を軽減できる」と説明しました。

20代の参加農家は「植え付け時期や肥料設計なども先輩農家と情報交換ができ、出席して良かった」と話しました。



▲連作障害回避に向けた土づくりを学ぶ若手農家

NEWS & TOPIC 地域の話題

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化(地域貢献)」に向け、JA十和田おいらせは「創造的JA自己改革」の取り組みを実践中です。

■ 寺澤さん(ナガイモ)受賞

～青森県農業経営研究協会賞受賞～

七戸支店管内のナガイモ農家、寺澤和夫さん(56)が、青森県農業研究協会賞を受賞しました。輪作体系を確立したナガイモの高品質生産と優良種子供給による安定経営の実現、さらに農業後継者の育成など、本県のナガイモ振興に大きく貢献していることが評価されました。

一般社団法人青森県農業経営研究協会が主催、農業経営の改善を実践し、優れた業績をあげている専業農家、団体・法人に贈られます。市町村長らの推薦を経て、国立弘前大学や県関係機関の選考委員によって認定されます。

表彰授与式は3月1日、青森市内のホテルで行われ、寺澤和夫さん、典子さんご夫妻に賞状と記念品が贈られました。受賞の寺澤さんは「条件の良い畑の選定から始まり、良品質生産には丁寧な仕事をすることが大事。今後も品質重視の経営を目指していく」と抱負を述べました。



▲青森県農業経営研究協会賞を受賞した寺澤さんご夫妻(青森市、3/1)

■ ダイコンの春まき作業始まる ～トンネルで被覆～

ももいし・下田の両支店管内で3月上旬から春まきダイコンのトンネル栽培が始まりました。畠の雪解けが早かったため、例年より1週間ほど早まりました。県内で最も早く収穫を迎えるメリットを生かし、良品質生産で売り場の確保につなげ有利販売を目指します。

同町新敷地区の鳥越肇さん(45)は3月6日、家族3人と畠に種をまいた後、生育を早めるためにトンネルを設置。等間隔で支柱を立て、ポリフィルムを被覆する作業を繰り返しました。5月中旬に収穫を迎える予定です。



▲ダイコンのトンネル栽培に精をだす生産農家

■ 外国人技能実習生に修了証書

～中国での畑作に意欲～

当JAは2月28日、本店で外国人農業技能実習修了証書授与式を行い、3年の期間満了を迎えた1期生の実習生3人に修了証書と記念品を贈りました。

実習生の受入は2016年4月からの取り組みで、今回1期生を含め現在15人が播種や収穫、管理作業などを通じ日本の農業を学んでいます。当JA役員より実習生一人一人に修了証書と記念品が贈られ「家族と離れ、3年間の長い研修を頑張ってくれたことに感謝します。日本で学んだことを中国でも生かして欲しい」と労をねぎらいました。



▲修了証書を手にした実習生3人